

「トロッコ問題」

2015年10月17日(土)

カフェ・ミヤマ渋谷公園通り店 [1号室] (渋谷)

参加：18名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・「トロッコ問題」について新規参加者1名を含む総勢18名で対話しました。カントの唱えた義務論を振り返り、功利主義的、義務論的両立場の考え方を吟味し、どちらがより道徳的かについて考え、対話を進めました。

2. 対話：

(0) 思考実験：トロッコ問題について

- ・司会からトロッコ問題*1を説明し、自分ならどうするかを聞いた。*1：Wikipedia：トロッコ問題参照

(1) 対話前：自分ならどうするか？

- ・対話前の考えを確認するため、設定を説明直後にもし自分なら分岐器の切り替えレバーを引くかどうかを聞くと、引く：4名、引かない：10名という結果となった。なぜそう考えるのか？

a) レバーを引かない派

- ・5人の方が5倍だけ1人よりも価値があると分からない。
- ・(殺すという) 能動的な行為は嫌である。
- ・切り替えない立場だが、特定の考えがあつてのことではなく、判断ができずに保留という状態である。
- ・切り替える行為は一人を殺すということであり、その責任を負いきれない。

b) レバーを引く派

- ・5人と1人を比べるのだから、単純に5人を救うはずである。

(2) 5人と1人の数を変えてみたら

- ・レバーを引かない派の人達への質問が上がった：

Q：今は5人と1人であるが、これがもし1万人と1人の場合であれば、判断が揺れないか？
もし揺れるのであれば、それはなぜだろうか？

(3) それぞれの言い分

a) レバーを引かない派

- ・1人の価値は、誰でも同じなのか。年若い人と老人とでは価値が異なるのではないか。
- ・自然の成り行きを尊重するという考え方でもある。
- ・5人を見殺しにすることと1人を殺すことの比較であるが、5人の方は所謂運命として受け入れられるので、5人を見殺しにする。

b) レバーを引く派

- ・5人を救うのは、算数的な思考から来る結論である。
- ・5人を見殺しにすることと1人を殺すことの比較であるが、所詮はどちらも背負い切れない。どちらかと言えば、1人を殺す重みに向き合う方がましである。
- ・人の命は大事であり、その理由から5人を救うべきである。

c) Y字になっていたら？

- ・Y字でどちらかを選ぶという設定であれば、どっちにしても能動的に選ぶので、切り替える。

(4) カントが唱えた義務論の紹介

- ・司会から義務論*2を説明し確認した。*2：出典：マイケル・サンデル著「これからの正義の話をしよう」

(5) 9.11時点でWorld Trade Centerに突っ込む旅客機に撃墜命令を出せる大統領であったら？

- ・2機の乗客数は約160名、最終的なビルでの死亡者は2,750名。自分なら撃墜命令を出せるか？

(6) 感情が大事かどうか？

- ・5人と1人の例において、その1人が自分の子供で他の5人が知らない人達であれば、当然その1人を守るはずである。判断は感情が優先するのではないか。義務論は感情の要素がないので嫌いである。
- そういう考え方を肯定すると、今度は他人がレバーを操作し、自分の親族を救うために、犠牲になった5人の中に自分の親族がいた場合には、文句を言うのではないか？
- 当然言うであろう。つまり、自分の判断のときはOKだが、他人の判断のときは嫌である。
- ・親族や大切な人を優先するという考え方は、ひいては、税金を払う人を優先する、男性よりも再生産をするという観点から女性を優先する、労働力という観点から老人よりも若者を優先するという命の選別に繋がりがかねない。そういう考え方は、普遍性がない(道徳的とは思えない)ので、一人を殺さない。

(7) 道徳の起源は？

- ・道徳の起源には、感情があるはずである。多くの人々の感情を納得させるために道徳が形成されてきたはずである。だから、感情を大切にすべきである。
- 道徳の起源には感情がある点には納得するが、だからと言って、起源とは別に道徳を考えるべきである。

(8) トリアージュ

- ・トリアージュの場合は、そういう手順が予め決定されているので納得でき、功利主義的な立場を取る。
- 思考実験で5人を殺すと言っていた人達はトリアージュに賛成できる。

(9) 再判断

- ・今までの対話を踏まえ、レバーを引くかどうかを再度聞くと、引く：9人、引かない：5人、さらに、橋の上から太った人を突き落とすかどうかは、落とす：5人、落とさない：7人という結果であった。

3. まとめ：

- ・感情を大切するという考え方が提起されたが、義務論と比べて普遍性があるものにまでは深められなかった。
- ・哲学カフェでは珍しい試みとして一部講義を取り入れたが、参加者には概ね受け入れられた様子であった。